

2024年度活動概要

EMI (English-Medium Instruction) 研究会

2024年度の最初の活動は、マレーシアのクアラルンプールで開催された、AILA2024に参加し、**Holistic Analysis of English-Medium Instruction in Japanese Higher Education** と題して、SIG メンバーの中村詩のぶ、柴田美紀、石川智和に加えて、Annette Bradford 氏とシンポジウムを行った。

2024年10月18日18:00から19:15まで、第1回研究会をオンラインで開催し、5名が参加した。研究会では、2つの事例が報告された。SIG 副代表の中村が2022年に武蔵大学に新設された、学位プログラム「国際教養学部グローバルスタディーズ専攻」を紹介した。この専攻の学生は卒業単位の8割を英語の授業で取得し、最終年度に英語で論文作成やアドボカシー活動を行う。次に、SIG 代表の柴田が2018年に広島大学総合科学部に創設された国際共創学科について報告した。この学科は、英語で授業を提供し、日本人学生と留学生が共に学ぶ。各紹介の後半で、両氏がそれぞれ行った量的・質的研究の結果を基に、EMIの課題についても報告された。事例報告後に意見交換会が行われた。

12月7日には立命館大学衣笠キャンパスで行われたJALL in JACETで柴田と中村がポスター発表を行った。

2024年2月21日18:00から19:130まで、第2回研究会をオンラインで開催し、9名が参加した。今回も2つの事例が報告された。まず、大藪氏は金沢大学のEMIコースに関する調査結果を報告した。次に、岩中氏は山口県立大学でのEMI科目の実施状況を紹介。8つのEMI科目が提供され、英語と多文化共生を重視したカリキュラムが展開されている。（この回では、事情により意見交換会の時間を取れなかった。）

4つの事例報告では調査結果から明らかになった課題も報告された。これまでの報告で、日本の大学で様々な形でEMIが実証されており、それぞれに課題があることが分かった。EMIの最たる目的が語学学習でないとしても、EMI授業における学生の英語力が問題とされていることから、英語教育に携わる大学教員がEMIの改善に貢献できると期待する。この意味で、次年度も継続して、事例報告会を行い、EMIがもたらす課題について考えていきたい。